

## 各国のGBR評価 一覧表

GBRレポート(WGレポートを含む)をもとに作成。  
 「海外からの侵入リスクと安定性との相互作用」、「国内でのBSE増幅の可能性」、「今後予想されるGBRの展開」の項目は、レポートのサマリーをもとに作成。  
 ただし、緑字の記述は、わかりやすくするためWGレポートから補足したもの。

### オーストラリア(2004年7月) GBRレベル:

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	非常に低い	無視できる	非常に低い	問題あり	問題あり	問題あり	主にパッシブサーベイランス	極めて不安定	可能性はほとんどない
1986～1990	無視できる		無視できる						
1991～1995			非常に低い						
1996～2000			無視できる						
2001～2003	ほぼ問題なし		非常に低い						

#### 海外からの侵入リスクと安定性との相互作用

オーストラリアでは、1980年代初め～2000年まで、システム(安定性)は「極めて不安定」であった。  
 しかし、海外からの侵入リスクが「無視できる」もしくは「非常に低い」ために、国内でBSE病原体の増幅が起こった可能性はほとんどないと考えられる。  
 どの侵入リスクも、リスク管理システムが「極めて不安定」又は「非常に不安定」なことから、感染は循環される。

#### 国内でのBSE増幅の可能性

1980年～2003年まで、国内におけるBSE病原体の増幅の可能性はほとんどなかった。

#### 今後予想されるGBRの展開

交差汚染の可能性が存在し、レンダリングに大きな変化が無い限り、システムは引き続き「非常に不安定」であり続けるであろう。  
 従って、牛が(前臨床的または臨床的に)BSE病原体に感染する可能性は、低いレベルで残る。

### ニュージーランド(2005年5月) GBRレベル:

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	問題あり	主にパッシブサーベイランス	極めて不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995									
1996～2000									
2001～2003									

#### 海外からの侵入リスクと安定性との相互作用

1980年代初め～2003年まで、システムが「極めて不安定」であった。  
 しかし、海外からの侵入リスクが「無視できる」であったことより、国内でBSE病原体の増殖が起こった可能性はほとんどないと考えられる。  
 どの侵入リスクも、リスク管理システムが「極めて不安定」又は「非常に不安定」なことから、感染は循環される。

#### 国内でのBSE増幅の可能性

1980年～2003年まで、国内におけるBSE病原体の増幅の可能性はほとんどなかった。

#### 今後予想されるGBRの展開

海外からの侵入リスクが生じない限り、地理的BSEリスクは現状通り低いと思われる。  
 しかし、極めて不安定なシステムにより、いかなる海外からの侵入リスクも、国内での暴露・増幅リスクの形成につながり得る。

メキシコ(2004年7月) GBRレベル:									
期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	ほぼ問題なし	1996～2003年 パッシブサーベイランスと、一部アクティブサーベイランス	非常に不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995	高い	非常に高い	非常に高い						
1996～2000	極めて高い	極めて高い	極めて高い						
2001～2003	非常に高い								
<b>海外からの侵入リスクと安定性との相互作用</b>									
<p>「非常に高い」または「極めて高い」海外からの侵入リスクと、「非常に不安定」なシステムとの組み合わせにより、国内でのBSE病原体の増幅が1993年以降に起こった可能性がある。          どの侵入リスクも、リスク管理システムが「非常に不安定」なことから、感染は循環される。</p>									
<b>国内でのBSE増幅の可能性</b>									
1990年までは可能性がほとんど無かったものの、1993年以降は存在及び拡大の可能性があった。									
<b>今後予想されるGBRの展開</b>									
国内での暴露・増幅リスク及び海外からの侵入リスクが引き続き存在し、これらに対するリスク管理システムが非常に不安定であれば、地理的BSEリスクは増大する可能性がある。									

チリ(2005年6月) GBRレベル:									
期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合リスク	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合リスク	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	ほぼ問題なし	1996年～ パッシブサーベイランス  2002年からアクティブサーベイランスが一部開始されたが、リスク動物をターゲットとしたものではない	非常に不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995									
1996～2000		高い	高い						
2001～2003		無視できる	無視できる						ほぼ問題なし
<b>海外からの侵入リスクと安定性との相互作用</b>									
<p>「非常に不安定」なシステム(1980～2000年)が、「無視できる」(1980～1995年)または「高い」(1996～2000年)侵入リスクに曝された。          2001年に、システムの安定性が改善され、後半の期間には「無視できる」侵入リスクに曝された。</p>									
<b>国内でのBSE増幅の可能性</b>									
1990年代後半に輸入されたMBMに暴露された国産牛が、処理工程に入った可能性があると考えられる。									
<b>今後予想されるGBRの展開</b>									
現在の不安定なシステムにより、海外から多大な侵入リスクがある場合には、BSEリスク増大に繋がる可能性がある。 2001年のレンダリング業界の改善と、2004年の給餌システムの改善により、システムの安定性が向上し、感染性の循環リスクが縮小されると思われる。									

**米国(2004年7月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合リスク	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合リスク	
1980～1985	中程度	無視できる	中程度	問題あり	問題あり	問題あり	パッシブサーベイランスであるものの、リスク集団の一部検査により改善	極めて不安定	存在の可能性あり
1986～1990	無視できる	低い							
1991～1995	高い	高い	非常に高い						
1996～2000	非常に高い	非常に高い	極めて高い						
2001～2003		極めて高い							

**海外からの侵入リスクと安定性との相互作用**

どの侵入リスクも、リスク管理システムが「極めて不安定」なことから、感染は循環される。

カナダの輸入データを排除すると、総合リスクは  
 1980～1985 中程度  
 1986～1995 高い  
 1996～2003 低い  
 となる。

国内におけるBSE病原体の増殖の可能性は、80年代始めにはあり、80年代後半では更にその可能性が高まった。

**国内でのBSE増幅の可能性**

暴露・増幅リスクは、1980～1990年は存在の可能性があり、1991～2003年は、存在及び増幅の可能性があった。

**今後予想されるGBRの展開**

レンダリングまたは給餌に著しい変化がない限り、安定性は極めて(もしくは非常に)不安定なままである。このように、牛がBSE病原体に(前臨床的又は臨床的に)感染する可能性は、絶え間なく増加する。

**バヌアツ(2002年6月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～現在	無視できる	無視できる	無視できる	ほぼ問題なし	問題あり	問題あり	1995年から認知訓練を導入したものの、BSE疑いは発見されていない 酪農場からの淘汰牛、成牛の死廃牛の全て(年間約40)を検査するプログラムを開発中	非常に不安定	可能性はほとんどない

**海外からの侵入リスクと安定性との相互作用**

BSE/牛システムは、1982年以降重大な侵入リスクに曝されなかった。

**国内でのBSE増幅の可能性**

1990年から現在まで、暴露・増幅リスクが生じる可能性はほとんど無かったと思われる。BSEの感染力が国内に入ったという事実がないことから、BSEの感染力は処理工程に入らず、循環も増殖もなかった。

**今後予想されるGBRの展開**

海外からの感染拡大リスクがない限り、GBRは現在と同じく、低いままと考えられる。しかしシステムの安定性が低いことから、いかなる海外からの侵入リスクも国内での感染拡大リスクの増加につながるおそれがある。

**パナマ(2005年6月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	ほぼ問題なし	主にパッシブサーベイランス	非常に不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995									
1996～2000									
2001～2003				ほぼ問題なし	不安定				

**海外からの侵入リスクと安定性との相互作用**

「非常に不安定」なシステム(1980～2000年)及び「不安定なシステム」(2001～2003年)が、「無視できる」侵入リスク(1980～2003年)に曝された。このような条件下では、国内での暴露・増幅リスクが生じる可能性はほとんどなかった。

**国内でのBSE増幅の可能性**

暴露・増幅リスクの可能性はほとんどなかった。

**今後予想されるGBRの展開**

現在の不安定なシステムを考慮すると、何らかの無視できない侵入リスクが、地理的BSEリスクを増加させる可能性がある。

**コスタリカ(2005年2月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	問題あり	主にパッシブサーベイランス	極めて不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995	非常に低い	低い	低い						
1996～2000	無視できる	無視できる	非常に低い	ほぼ問題なし	問題あり	問題あり	主にパッシブサーベイランス	非常に不安定	可能性は低い が排除出来ない
2001～2003		非常に低い	低い						

**海外からの侵入リスクと安定性との相互作用**

どの侵入リスクも、システムが「極めて不安定」又は「非常に不安定」なことから、感染は循環される。

**国内でのBSE増幅の可能性**

暴露・増幅リスクは、1980年～1990年はほとんど可能性がなく、1991年～2003年は、可能性は少ないものの排除されなかった。

**今後予想されるGBRの展開**

安定性が増すまで、特に侵入リスクが増加するのであれば、地理的BSEリスクが引き続き増加するという可能性を排除できない。

**ブラジル(2005年6月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	ほぼ問題なし	主にパッシブサーベイランス	非常に不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995	低い	無視できる	低い	ほぼ問題なし	問題あり	ほぼ問題なし	2001年～アクティブサーベイランスも一部実施	不安定	可能性は低い が排除できない
1996～2000	無視できる		無視できる						
2001～2003									
<b>海外からの侵入リスクと安定性との相互作用</b>									
「非常に不安定」なシステム(1980～2000年)は、「無視できる」侵入リスク(1980～1990年)、「低い」侵入リスク(1991～1995年)、「無視できる」侵入リスク(1996～2000年)に曝された。 2000年には、システムの安定性は「不安定」にまで改善され、最後の期間(2001年～2003年)には「無視できる」侵入リスクに曝された。									
<b>国内でのBSE増幅の可能性</b>									
侵入リスクのレベルからすると、暴露・増幅リスクが生じる可能性は、1990年まではほとんどなかった。しかし、1991年以降は、主に1991年～1995年のBSEリスク国からの生体牛輸入により、暴露・増幅リスクは、「可能性は低い が排除できない」状態となった。									
<b>今後予想されるGBRの展開</b>									
システムの安定性が現状通り低いままであれば、侵入リスクは地理的BSEリスクを増大させる可能性がある。									

**カナダ(2004年7月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	低い	無視できる	低い	問題あり	問題あり	問題あり	主にパッシブサーベイランス	極めて不安定	可能性は低い が排除出来ない
1986～1990									
1991～1995	中程度	高い	高い	問題あり	問題あり	問題あり	リスク集団の一部検査により改善	極めて不安定	可能性が速やかに増加しつつある
1996～2000	高い	極めて高い	極めて高い						
2001～2003			非常に高い	非常に高い					
<b>海外からの侵入リスクと安定性との相互作用</b>									
どの侵入リスクも、リスク管理システムが「極めて不安定」なことから、感染は循環される。									
<b>国内でのBSE増幅の可能性</b>									
暴露・増幅リスクは、1980年～1990年は、可能性は少ないものの排除はできず、1991年～2000年は、可能性があり急速に増幅し、2001年～2003年は、低いレベルで確認された。									
<b>今後予想されるGBRの展開</b>									
リスク管理システムが不安定である限り、新たな侵入リスクが生じなくても、地理的BSEリスクは引き続き増大すると思われる。									

**ノルウェー(2004年7月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	1999年まで 問題あり	問題あり	問題あり	サーベイランスなし	極めて不安定	可能性は ほとんどない
1986～1990		非常に低い	非常に低い						
1991～1995	非常に低い	中程度	中程度						
1996～2000	無視できる	無視できる	無視できる	2001年まで ほぼ問題なし	2000年～ ほぼ問題なし	2001年～ 問題なし	1990年代 パッシブサーベイ ランス	1999年まで 非常に不安定	
2001～2003							1998年～ 強化パッシブサー ベイランスの開始	2000年まで 不安定	
				2001年半ば～ 問題なし			2001年～ 広範なアクティブ サーベイランス	非常に安定	

**海外からの侵入リスクと安定性との相互作用**

1980年～1990年の間、「極めて不安定」なシステムは、「非常に低い」侵入リスクに曝された。  
1991年～1999年の間、システムの安定性は「非常に不安定」へ、2000年には「不安定」へと改善した。  
侵入リスクは「中程度」になった後、1996年に「無視できる」に低下した。  
2001年以降、システムは非常に安定し、リスクは低下した。

**国内でのBSE増幅の可能性**

暴露・増幅リスクは、1980～1986年は可能性がほとんどなく、1987年以降は、可能性は少ないものの排除できなかった。

**今後予想されるGBRの展開**

BSEや牛を巡るシステムは、現在非常に安定していると思われる。  
実施されている措置が引き続き適切に行われると仮定すれば、すでに感染した動物がいなくなるに従い、地理的BSEリスクは減少するだろう。  
実施されている措置が効果的に行われれば、理論的に輸入牛が保有している感染力は国内牛に達しないことから、生体牛の輸入はリスクを増加させない。

**アルゼンチン(2005年6月) GBRレベル:**

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	2002年6月 まで 問題あり	問題あり	ほぼ問題なし	主にパッシブサー ベイランス	2002年6月 まで 非常に不安定	可能性は ほとんどない
1986～1990									
1991～1995									
1996～2000				1996年～ リスク動物にター ゲットを絞ることに より改善					
2001～2003					2002年7月～ ほぼ問題なし	2002年7月～ 不安定			

**海外からの侵入リスクと安定性との相互作用**

システムは、「非常に不安定」(1980～2002年6月)や、「不安定」(2002年7月～2003年)だったものの、全期間を通して侵入リスクは「無視できる」であったことにより、暴露・増幅リスクが生じる可能性はほとんどなかったと思われる。

**国内でのBSE増幅の可能性**

1980年～2003年まで、暴露・増幅リスクの可能性はほとんどなかった。

**今後予想されるGBRの展開**

海外からの侵入リスクが「無視できる」限り、牛がBSE病原体に(前臨床的または臨床的に)感染する可能性はほとんどない。  
現在の不安定なシステムにより、多大な侵入リスクが地理的BSEリスクを増大させる可能性はある。

### ハンガリー(2001年3月) GBRレベル:

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1981	低い	高い	高い	問題あり	問題あり	問題あり	1980年代後半～ パッシブサーベイランス	極めて不安定	可能性は低い が排除出来ない
1982～1990					問題あり			非常に不安定	
1991～1993				ほぼ問題なし	不安定				
1994～1996	ほぼ問題なし	中程度	非常に高い	非常に高い					
1997～現在	ほぼ問題なし							1997年～ アクティブサーベイランス開始	

#### 海外からの侵入リスクと安定性との相互作用

「極めて不安定」なシステムは、主にBSE感染国からの肉骨粉輸入により、「高い」(1986～1993年)及び「非常に高い」(1994年以降)侵入リスクに曝された。1980年代初期から1990年代半ばあたりまで、国内牛は感染した可能性があり、BSE感染牛が処理工程に入り、循環・増幅した可能性がある。システムは不安定なことから、リスクは増加したと思われる。最近採用された措置により、規制の結果次第では、地理的BSEリスクは改善するだろう。

#### 国内でのBSE増幅の可能性

暴露・増幅リスクは、1980年～1981年は、可能性は少ないものの排除できなかった。1982年以降は、可能性は存在し、増加した。

#### 今後予想されるGBRの展開

システムが不安定である限り、たとえ海外からの感染拡大リスクが生じなかったとしても、牛がBSE病原体に(前臨床的または臨床的に)感染する確率は更に高まると予想される。さらなる感染拡大リスクが生じれば、この過程に拍車がかかることになるであろう。しかし、アクティブサーベイランスの強化に伴って予定されているSRMとレンダリングに関する対策(2001年3月～)が適切に実施されれば、システムの安定性は更に改善されるであろう。

### ニカラグア(2005年2月) GBRレベル:

期間	海外からの侵入リスク			安定性					国内でのBSE増幅の可能性
	輸入牛	輸入MBM	総合レベル	飼料給餌	レンダリング	SRM除去	サーベイランス	総合レベル	
1980～1985	無視できる	無視できる	無視できる	問題あり	問題あり	問題あり	2000年～ パッシブサーベイランス	極めて不安定	可能性はほとんどない
1986～1990									
1991～1995				無視できる					
1996～2000	低い	無視できる	低い	ほぼ問題なし	ほぼ問題なし	ほぼ問題なし	不安定	可能性は低い が排除出来ない	
2001～2003	無視できる								

#### 海外からの侵入リスクと安定性との相互作用

どの侵入リスクも、リスク管理システムが「極めて不安定」または「不安定」なことから、感染は循環される。

#### 国内でのBSE増幅の可能性

暴露・増幅リスクは、1980年～1995年は可能性がほとんどなかったが、1996年～2003年は、可能性は少ないものの排除は出来なかった。

#### 今後予想されるGBRの展開

安定性が向上しないかぎり、新たな侵入リスクが生じなくても、地理的BSEリスクは引き続き増大すると思われる。